

修士論文テーマ

在日中国人の子どもたちの言語発達 と育児支援の課題

社会システム研究科 地域コミュニティ専攻
学籍番号 2011M30003 王 琳琳

論文要旨

在日中国人の家庭の子どもたちの多くは家庭では中国語、家庭外では日本語という二言語環境におかれている。しかし、沈（1991）は片親のみならず、両親が在日中国人である場合でも、生まれた子どもの多くは意外にも中国語が話せないこと、また、幼児期に日本に来て、日本の幼稚園や保育所に通っている子どもたちも、一年も経つと中国語の能力が著しく低下し、意思の伝達には役立たなくなる事例が多いとしている。しかし、双方の言語とその背景にある文化を習得していくことは、日本と中国の二カ国のかけ橋となる存在となっていくうえでも、また、中国人としてのアイデンティティを保持続けるためにも大きな意義があると考えている。

卒業研究では、在日中国人の発達研究者である劉の研究を紹介すると共に、日本で子育てしてきた在日中国人の保護者二人（一人は大学教授、もう一人は飲食店経営者）へのインタビューを行い、我が子の二カ国語習得過程で生じた様々な課題や困難さを調査し、在日中国人の子どもへの二カ国語習得を保障していくための課題を検討した。

本研究では卒業研究をさらに発展させて、在日中国人家庭の幼児の言語習得過程について、二人の事例についての縦断的な研究を行い、その2事例と劉の比較・検討を行うことを通じて、二カ国語の習得に及ぼす諸要因と育児支援の課題についての考察を行った。

まず、1章では通常の子ども（1歳から3歳まで）の言語発達過程を、先行研究に基づいて、乳児期前半、乳児期後半、幼児期に分けて概観した。次に、在日中国人の劉が行った、我が子の二カ国語の習得過程の先行研究を紹介し、最後に、在日中国人家庭の子どもたちの言語習得の過程に影響を与える諸要因と課題について、①家庭の言語環境の問題、②親が子育てにどのぐらい力を入れているか、③家庭の経済状況、④子どもの中国語を勉強する意欲の強さ、⑤中国へ帰国し、中国語環境に置かれている期間、⑥親が子どもに中国語の指導する意図があるか、の6つの観点から整理した。

続く2章の在日中国人家庭の幼児の言語発達に関する事例比較では、在日中国人家庭の幼児、2事例の言語習得過程の縦断研究とそれに基づいた考察を行った。まず、A子とB子の日本へ来る目的や生活状況などの家庭状況をまとめた後、両者の言語習得の過程を縦断的に検討し、両者の相違を生み出した要因を考察した。

A子は43ヶ月(3歳7ヶ月)の段階で両方の言語を使い分けて答えることができおり、少しずつ、2カ国語を使いこなせるバイリンガルに向かっていると考えられた。

それに対して、B子は37ヶ月(3歳1ヶ月)段階で、日本語では三語文を話せるのに対して、中国語では依然として一語文しか話せない状況にあり、日本語と中国語の間には大きな差が存在しており、A子のようなバイリンガルの基礎は獲得できていないと考えられる。

A子の母親はずっと言語指導を行っており、できる限り、A子の面倒も見っており、保育所の活動にも協力的である。B子の場合、母親はずっと仕事が忙しく、保育所の活動にも参加しないし、B子と一緒にいる時間も少ない。このような関わり方の違いによって、子どもの中国語の言語能力にはかなりの差が生じてきたと考えられる。

今後の課題としては、大きくは次の二つの観点があげられる。

1. 在日中国人家庭の幼児の言語習得過程に関する縦断的な検討の継続

今回は二組の在日中国人夫婦の子ども(保育園児)の縦断的な観察と検査を行い、2カ国語の言語習得状況についての比較検討を行った。

ただし、A子は発達検査を始めた段階で既に29ヶ月になっており、劉のように言語獲得の初期の段階からの検討は行えなかったために、劉の研究との比較という点では課題が残されている。また、今回、縦断研究の対象としたのは二組だけだったが、劉の研究との比較検討を行っていくためには、さらに多くの在日中国人の夫婦の子どもに対する縦断的な研究を丁寧に行っていくことが必要であろう。そのことによって、2カ国語の言語修得に影響を及ぼす諸要因について、さらに明らかにできると考えている。

2. 在日中国人保護者を支援するための言語指導プログラムの開発

また、多くの中国人の親たちは子どもがバイリンガルになってほしいと願っていても、子どもの言語指導の方法をまったく理解していない。実際、ほとんどの親は子どもに二つの言語を一気に教えると子どもが混乱すると誤解している。しかし、劉や今回の研究からも示されたように、二つの言語を一緒に教えても、三歳を過ぎた頃には子どもは両言語を分化し、両言語を話せるようになるのである。

それだけに、劉の言語教育の方法などを参考にしながら、保護者が家庭において、我が子が2カ国語を修得していくための具体的な関わり方のスキルを学習できる機会を保障していくことが重要になってくるのである。

今後、保護者が我が子の言語習得への支援を適切に行えるように援助していくためのプログラムの開発なども重要な研究課題となってくると考えられる。